

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

1月31日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会
会議録

平成29年1月31日

午前10時00分 開会

午前11時54分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	郷右近修
委員	清水義昭	委員	鵜飼貞雄
委員	近藤裕英	委員	後藤学
委員	宮本英彦	委員	ふじえ真理子
委員	毛受明宏	委員	近藤郁子
委員	近藤千鶴	委員	早川直彦
委員	山盛さちえ	委員	近藤善人
委員	月岡修一	委員	三浦桂司
委員	一色美智子		

2. 欠席委員

委員 蟹井智行

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	石川晃二	議事課長	馬場秀樹
議事担当係長	水野美樹	議事課主事	荻正幸

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

一般傍聴者 3名

午前10時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） おはようございます。定刻に御出席いただき、ありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

蟹井議員のほうから欠席届が出ておりますので、御報告をいたします。

それから、机上に資料として、資料ナンバー3の追加資料、それから資料6、これは表紙の差しかえということになります。表紙というか、この1枚の差しかえです。それから資料7、議会の活動状況、平成25年、この3つの資料が机の上に置かれてると思いますので、よろしく願いいたします。

本日の傍聴について、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入場を許可いたします。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事につきましては、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

今までの経緯や他市の状況等についてを議題といたします。

委員間で論点整理をするに当たりまして、今までの議員定数や報酬について共通認識を図りたいと思います。さきの特別委員会で、資料ナンバー1から資料ナンバー5までを配付し、議員定数の変遷については11年までさかのぼり調査をしましたが、詳細な内容までは共通認識が図られていませんので、本日、調査をしていきます。よろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 本日、追加資料として机上に配付いたしました、初めに資料ナンバー3の追加資料であります。これは早川委員より提出がありました。歳出に占める議会費の割合や財政力指数及び高齢化率をつけ足したものであります。続きまして、資料ナンバー6、これは山盛委員並びに早川委員より、定数の変遷に関して、請願、陳情などを中心に28点の資料を提出していただきました。資料ナンバー7は、議会の活動状況を示すものです。御苦労さまでした。

今後の資料の提出につきましては、事前に正副委員長まで提出をしていただきまして、精査をした上で配付し、委員会として採用するか否かを諮っていきます。

また、資料につきましては、議会に提出されたもの、これは議案だとか請願だとか陳情です。それから公式に発行されたもの、議会だよりだとか会議録等です。それから、他の市町において公表されている数値を取りまとめたものに限定していきます。したがって、個人のブログや会報などは資料として取り扱わないこととします。このような方針で

いきますが、よろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) では、本日配付した資料ナンバー3の追加資料及び資料ナンバー6、資料ナンバー7については、今回の方針に合っていると判断いたしました。

お諮りいたします。本日配付した資料、ナンバー3の追加資料及び資料6及びナンバー7の資料を本委員会の資料とすることに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 御異議なしと認めます。

それでは、資料2から資料7を参照しながら、初めに、議員定数について調査を進めていきます。

平成19年の改選前後で、26人から22人に4人削減されています。この件について簡潔に説明をお願いいたします。

村山副委員長。

○村山金敏委員 資料ナンバー2でございますが、第1期からずっと第11期までございますが、私が議員になってからでございますが、平成11年第8期から、議員定数26名からということでありまして。その中で、資料ナンバー6のほうにもありますが、平成17年度12月議会、それ以前につきましては、周辺市町、それと全国的に定数削減傾向にあったということでありまして、大きな要因はありませんでしたが、平成17年度から請願等が出てまいりまして、平成17年度12月議会、市民の方々から定数を削減するように求められております。

それと同時に、26名の維持を求めるという請願と、26名から20名に定数を削減するという請願ですね、これは。それから、次に、平成17年度3月議会に議員提出議案第1号として、豊明市議会の議員の定数を定める条例の一部改正についてということで、議員提案で26名から22名に削減をされました。これ、可決ということで22名に削減されました。それで、平成22年度9月議会、陳情によりまして22名から18名に削減を求めるという請願が出てまいりましたが、これは趣旨採択ということでございます。

それと、議員提出議案……。

(発言する者あり)

○村山金敏委員 4人減ですね。4人減だけですか。

それと、平成22年陳情10号につきましては、豊明市議会議員の定数削減を求める、これが22名から18名に削減を求めるという内容で、趣旨採択。同時に、議員提出議案第5号で

豊明市議会の議員の定数を定める条例の一部改正について、22名から20名に削減を求めるということで、この案件に対しては否決ということであります。

それと、22年12月直接請求、22人から18人に削減を求める。これは直接請求でありますので、議案第72号として豊明市議会の議員の定数を定める条例の一部改正についてということで、これは継続審査となりました。

平成23年1月、要望書、3月議会までに審議を引き延ばすことなく臨時議会で結論を出すようにするというので、要望書が出ております。

続きまして、平成23年度3月、議案第72号、豊明市議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例に対する修正案の提出について、18から11名に削減を求める、これは否決となりました。

それで、続きまして、議員定数特別委員会審査報告書は除きまして、次に、議案第72号、豊明市議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例に対する修正案の提出について。これは22名から18名ということで、修正可決ということでございます。

以上でございます。

それで、資料2のほうに戻りまして、1期、2期、3期、4期、5期、6期まではちょっと私のほうでは詳しいことは述べられませんが、7期ですね、7期まではちょっと述べられませんが、8期、9期、10期、11期についてはある程度述べられると思います。これは、26名、私が最初に選挙に臨んだときは定数26名になっておりました。それで、それから、先ほど言いましたように、8期、9期については、全国的、周辺市町もそうですが、26名から減員しようという声は上がっておりました。10期からは、先ほど言いましたように市民の方々から要望が出まして、このような定数削減ということになっております。

以上です。大体おおまかなところでございます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 大まかな流れで、現在までの流れを今説明されましたが、古い議員の方で、5期以上の議員の方で、古いというか、今、副委員長のほうから説明がありまして、前半のほうの部分について、何か補足説明がありましたら、していただけたらありがたいと思いますが、どうでしょうか。

（19年までにしての声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それなら19年までで、9期までですね、19年まででちょっと区切っていきます。

19年までで何か補足的な御意見がありましたら。御意見、知っていることとか、補足することがありましたらお願いいたします。

月岡委員。

○月岡修一委員 特にありません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほか、ありませんか。

（19年って言った、9期だよの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 19年が9期、いいよ。

それでは、特に3期以上の委員の方、3期以上といいますと19年から、平成19年よりも後ですね。だから、10期、11期、現在でいきますと12期。だから、10期、11期のあたりで補足することがありましたら、3期以上の方、ありましたらお願いいたします。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今委員長が言われたところだけではなく、この資料を作成いたしましたので、うちの会派で。もう少し補足の説明も含めて、それから、本日、かがみの部分、1枚目の部分を差しかえさせていただきましたので、その内容についての説明も今したいんですけど、よろしいでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、してください。明瞭簡潔にお願いいたします。

○山盛さちえ委員 まず、本日提出いたしました資料ナンバー6ですけれども、前回の協議会のときに出させていただいたのとどこが違うかという、裏面を見ていただくと、資料番号が25番と26番の間に線を入れまして、11期と12期の区別をいたしました。前回の資料は、下まで全部11期ということで提出しておりましたので、ここを訂正して正しいものにいたしましたので、御確認をいただければと思います。

それから、資料6の全体の所感といえましょうか、について簡単に述べさせていただきますと、豊明市議会の議員定数は、平成11年の28人から26人に、11年に2人減員されまして、その後、平成19年に4人削減、平成23年に2人削減され、現在の20人となっております。

定数削減は、いずれも市民の求めからによるものであり、議会から、みずからこういった削減をしたということはありませんでした。請願が2回、陳情が4回、直接請求による市長の提案が2回ということで……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと話の途中ですが、今、資料の確認ということで、自分の意見は言わなくて、少なくとも資料について客観的な事実なり、そういう視点で説明をお願いしたいと思います。

○山盛さちえ委員 事実として、市民からの求めによるものでした。

それで、請願2回、陳情4回、直接請求による市長の提案が2回という、過去のそういった経緯がございました。削減を求める陳情等がそのまま可決されたことは一度もありません。

せんでした。市民の意向を受けて、それで議員から提案をしていくというような、そういった動きがあったというふうに見てとれます。

議員間、会派間の調整が困難をきわめることもあり、継続審査ということで、何度か資料6にあるように継続審査になっております。

資料番号13番のところにありますように、直接請求で18人に削減してほしいという市民の求めに対して、委員会で22人の、半減をすると、11人を求めるというような意見が出てきたりしたのは、それは今、申し上げましたように、議員間や会派間でなかなか調整がつかず、割かし単独行動的な、そういう経緯の中でこの11人という案が出てきたというふうに記憶しております。

それから、請願や陳情の中には、資料6の裏面を見ていただくとわかりますけれども、議員定数を増員してほしい、あるいは現状維持してほしいというように求める陳情もありました。4回のうちの2回がそういったものに当たります。

1回目は趣旨採択、2回目は不採択ということで、議員定数をふやす陳情に対しては、議会はこういう判断をしてきたということもおわかりいただけると思います。

動きとしては、今、申し上げたように、大きく4回市民から動きがありまして、3回については何らかの形で削減につながり、最終的に、20人から15人に削減を求める直接請求については、議会はこれを否決し、修正案とかそういったこともなく、今の20人を維持しているというふうになります。それが、26から28の資料番号のところに表現されているというふうに思っております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 資料に関して補説する方、おみえになりますか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） なしと認めます。

それでは、続いて、資料ナンバー6の26から28までは第12期、今期の議員により報酬並びに旅費に関する改正であります。第1期の委員が議案提出者になっていきますので、提案者より簡潔に説明をしていただきたいというふうに思いますが。

これは、後藤委員と宮本委員が出したんじゃないかな。今期の議員、旅費に関する改正、違ったかな。

私のほうから、資料ナンバー6について、報酬と旅費にかかわるところが出てきましたので、次につなげる橋渡しの意味も含めて、今、提案というか提示したということです。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 資料ナンバー26と27ですね。

（6の22の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 6の。ごめんなさい。この厚い資料6というものの中の、ナンバーで言うと26と27。後ろのほうです。後ろから二、三枚目のところですよ。

資料6の中でこの辺の説明がなかったんで、今ちょっとお願いをしたということですが、できますかね。

後藤委員、できますかね、ここ。

○後藤 学委員 ちょっと突然振られましたので、記憶がまだ完全に戻ってきておりませんが、皆さん方も御承知のように、この3月議会ですか、議員報酬と、それから期末手当、これを引き上げる改正案が出されて、それに対して特例で据え置きとするという、そういう提案をして、これは可決されたということだったというふうに記憶しております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） このことについて補説する委員、ございますか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 補足というよりも、資料の、報酬の資料が何番だったっけ。資料ナンバー4に、今までの議員報酬の一覧があるので、それとつなげて、議員報酬一覧、資料ナンバー4を見ると、年度が11年から28年までということで、議長、副議長、議員のそれぞれの月額報酬、それから期末手当に関するこれまでの経緯が全て書かれています。

全体を見ると、ごらんとおり、例えば議員で申し上げますと、平成11年のときは726万5,700円が期末手当も含めた年間の報酬額ということになっていますが、翌年には709万4,640円、その下は706万4,770円ということで、徐々に減ってきています。

1枚めくって、26年度のところを見ると、これ、上がったことはなく、毎年削減されていくんですけども、668万475円ということで、11年と比べると40万円弱減っているということがわかります。

それで、28年において、資料ナンバー26においては、値上げをするという提案が市長のほうからされました。これまでの減額の提案は人事院勧告によるもので、全て市長から減額の提案が出され、議会は認めてきたという形でしたが、議案第30号、28年の2月に初めて人事院勧告で値上げの案が出されたということがありました。それに対して、今、後藤議員のほうから御説明があったとおり、議会としては、値上げは、条例上は一旦は値上げ

を認めるものの、自主的に資料ナンバー27にあるように、議員提出議案でこの引き上げをしないというようなことで、掛け率を減してこういった状況になってきました。

なので、人事院勧告による減、あるいは1回の増に議会は従いつつも、初めて今期になって、議員の皆さんの総意でもって増額しないという意思決定をしたという、そういうようなことがおわかりいただけるかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

私、後藤議員のほうに振りましたので、またちょっと深める意味で、今、山盛委員のほうから説明が、補説があったというふうに私は理解しておりますが、ちょっとまとめますと、議員定数の経緯については、今まで中心にやってきましたので理解は深まったと思います。

今、報酬のほうにちょっと入っておりますので、資料3ですね、今説明もあったところもありますが、報酬に関して資料ナンバー3と、それからナンバー3の追加資料並びに資料4について説明もありましたが、副委員長のほうに改めて、重複するところもありますが、もう一度確認の意味も含めて、説明をお願いしたいというふうに思います。特に参考にさせていただけるのは、資料ナンバー3の追加資料、それから資料ナンバー4です。

お願いします。

○村山金敏委員 初めに、資料ナンバー3、前回配付しました資料ですが、愛知県内の近隣市の状況と、比較的人口規模が同じ市を選出いたしました。関東圏や近畿圏の中で人口及び面積が当市と同じくらいの市を選択し、議員定数、議員報酬額を拾い出してみました。さらに、備考欄には、交付税の関係や市町村合併の状況を掲載しております。

続きまして、資料ナンバー4を……。

3だけでとめますか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いい、4までやって。

○村山金敏委員 4までやります。

資料ナンバー4であります。平成11年から平成28年までの推移を示しています。

総じて右肩下がりであります。平成17年と平成26年に若干増額されてはいますが、総じて見ますと右肩下がりであります。平成11年には議員報酬が727万でありましたが、今年は約669万であります。約8%の減、金額でも約56万の減額になっております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 資料ナンバー3の追加資料ですね。追加資料も今、少し説明されたところ、あると思いますが、皆さん、見てください。

早川委員、これについて補説、ありますか。

○早川直彦委員 それでは、資料のナンバー3、追加資料について説明させていただきます。

資料ナンバー3の資料ですが、これ、豊明市議会基本条例の18条「市議会が議員定数を改正するに当たっては、市の人口、面積、財政力等、市政の状況と課題、将来の予測と展望を十分に考慮するものとする。」という条文から必要なデータが収集されたものであります。先ほども説明がありましたが、参考としたデータ、県内と首都圏、近畿圏、人口規模5万人台、10万人台のその間の24自治体となっております。その中から追加資料とさせていただきますので、順番に説明します。

まず、議員1人当たりの人口の位置、これは、5,187.6人の刈谷市、最下位は2,940.1人の高浜市であります。豊明市は3,434.8人で、24自治体中17位、平均の3,982.2人よりも少なくなっております。

続いて、議員1人当たりの人口の平均値から割り出した豊明市の議員数は17.3人となりました。現在の定数20人より少ない議員数を示した自治体は、豊明市を含め13あります。

続いて、議員報酬は、35万2,000円から54万円と幅があり、豊明市の40万5,000円は、低いほうから10位であります。

続いて、歳出に占める議会費の割合は、1.28%から0.6%と差が大きく、豊明市が1位で、最も議会に予算を投じている。最下位市は東海市であります。

財政力指数1を超える自治体は、1.31の刈谷市をトップに6自治体あり、最も低い自治体は0.6、豊明市は0.91で16位であります。

住民1人当たりの納税額は、1位がみよし市の28万8,651円、最下位が11万2,601円、豊明市は15万3,430円で15位であります。

豊明市の現状と課題。予測として高齢化率を比較したところ、愛知県平均は23.9%であります。豊明市は24.7%で平均より高く、比較した県内では5位となっております。これは、将来、医療や介護など扶助費の増加を意味し、財政への影響が予想されます。

以上のことから、豊明市の議員数は多目である、議員報酬は低いほうでありながら議会費の占める割合が高いのは、議員が多いためと読み取ることもできます。財政力、住民1人当たりの納税額とともに、上位から3分の2に位置すること、高齢化率が高いことから、定数削減があると読み取ることもできます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員に申し上げます。事実だけ、自分の推測するような言はちょっと控えていただきたいというふうに思います。

○早川直彦委員 これで説明を終わります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、今までやってきました経緯や他市の状況等については、調査を終了します。共通認識は……。

（資料ナンバー7がございますの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさい、忘れておりました。失礼いたしました。

資料ナンバー7が、きょう提出されて確認されましたので、説明をお願いいたします。
山盛委員。

○山盛さちえ委員 それでは、資料ナンバー7について簡単に説明させていただきます。これは、議会だよりで公表されている資料をとじ込んだものです。

まず、25年度の議会の活動状況ですけれども、1番、本会議開催状況をごらんいただくとわかりますが、本会議の日数は29日となっております。

次のページを開いていただくと、26年、27年、さらに裏面に28年の状況が書かれています。

本会議の開催状況を、数字だけを拾いますと、25年が29回、翌年が31回、さらに次が28回、28年が32回ということで、30日を若干上回ったり下回ったりというような状況でありました。なので、本会議の開催日数については、このところ緊急議会が多く開催されておりますけれども、物すごく変わるということはないということがおわかりいただけるかと思えます。

ごめんなさい、32です。足し算、間違えました。

（32かの声あり）

○山盛さちえ委員 ちょっと待ってください。31ですね、ごめんなさい。26年が31、27年が28、28年が34ですね。失礼いたしました。

次に、委員会等の開催状況。資料7の1枚目で見ていただくと、2番のところですが、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、全員協議会、会派会議、常任委員会の行政視察、その他会議ということで分類をしています。これを合計しますと186回、25年度は開催した計算になります。

同じような表が次からも並んでおりますけれども、26年が207回、27年が166回、28年が178回ということになりますので、ふえたり減ったりはしますけれども、大体200を少し超えたり超えなかったりというような開催状況だというふうになりました。

委員会等の開催状況については、これは日数で表現されているわけではなくて、1日の中に議会運営委員会が複数開催されることもありますので、ちょっと日数と回数を、表現に違いがありますので日数に置きかえることはちょっと困難でありますけれども、単純に

合計するとですが、25年度においては200回を超えるぐらいの議会の会議があったというようになりました。こういう状況でした。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

それでは、資料7までを十分見ていただいて、今までの経緯や他市の状況等についての大分理解が深まったというふうに思います。

ここで調査を終了します。

それで、続いて、今度は、議員定数・報酬の増減におけるメリット、デメリットについてを議題といたします。

この議題につきましては、各委員に事前に各自の意見を取りまとめていただきますようお願いしておりますが、論点整理の中心的な課題だと思えます。議員定数の増の場合、現状維持の場合、削減の場合について、メリット、デメリットはどうかということは今から行いますが、頭を整理するために、ここで私、今、課題を提示しましたので、ここで暫時休憩にしたいと思えますが、その前に鵜飼委員が挙手されたので、ちょっと聞きます。

○鵜飼貞雄委員 ごめんなさい。2番に移っている中で申しわけないんですけども、資料の説明をちょっと追加でお願いしたいのがありまして、資料ナンバー3の追加資料の歳出に占める議会費の割合、これなんですけども、議会費であって報酬ではないですよ。なのでそのあたりが、要はほかの市町との比較として、例えばこれが議会の改修だとかそういったものが、もし議場の改修とかがもし乗っかっている年度であったら、これは余り信憑性がないかなと思うんですね。どういった形でこれ、載せられたのかの御説明だけ、いただけないでしょうか。

○山盛さちえ委員 この数字を拾ったのは、27年度の決算カードから拾っていますので、豊明市に限っては議会の大幅改修は28年なので、入ってなかったんじゃないかというふうに思います。

他市についてはそこまでは確認はできていませんが、議会費は、主に議員の報酬、それから事務局職員の人件費、あとは旅費とか。それはわずかなので、ほとんどが事務局職員、議員の報酬というふうに捉えてよいかなというふうに思っています。

（26年度決算カードから計算しましたと書いてありますけどの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 26年度決算カードなので、済みません、訂正をさせていただきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） これで調査は終了いたします。

今と関連して……。

(では、報酬の件での声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 簡潔明瞭、どうぞ。

○山盛さちえ委員 事実関係ということで、この資料の中には直接あらわれていませんが、先ほどの条例改正案の中で、どういった効果といたしますか、があったかということの数字だけ共通理解しておいたほうがいいかなというので申し上げさせていただきます。

平成28年の3月、いわゆるこの資料で言う26番で、議員の報酬を人事院勧告に基づいて値上げした場合とそうでない場合の差額については3万390円、市長が人事院勧告で値上げを提案されましたが、議会としてはそれをしないというような議員提出議案を出しました。その可決されたことによって、1人当たり3万390円削減したということになります。

それからもう一つ、さきの12月議会で、議会のまた期末手当の値上げの案が提案されてまいりましたが、これも、議会全員の総意でもってこの案を撤回してほしいというふうに変更し、市長がそれを受け入れて議案として出されませんでした。

そのことによって、1人当たり年間で5万6,376円値上げを議会として遠慮したということになります。これは今期中ということでもありますので、掛ける3年をすることになります。

両方、28年の3月、28年の12月、2回の分を合わせると、今期中で19万9,518円、今期中、議員1人当たり値上げを遠慮したというような数字が出てまいりましたので、一応参考までに申し上げておきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、もう一度繰り返しますよ、論点整理の進め方として、議員定数の増、現状維持の場合、削減の場合のメリット、デメリットについて、次、入っていきますので、頭を整理していただきたいというふうに思います。

ここで15分間の暫時休憩といたします。

午前10時40分休憩

午前10時56分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 続いて、会議を進めます。

前半の部分では本市の経緯や他市の状況について学習したということで、1つ区切りをつけさせていただきました。皆さん、それで御異議ありませんね。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

先ほど私が課題を申し上げましたように、定数と報酬についての論点整理ということがあります。

順番にいきますと、順番にいくというか、このことだけは確認をしておきたいと思いますが、1つの意見というか出たものに対して反論するとか、そういう問題ではありませんので、あるいは自分の意見を言うとか、どういうことが考えられるかということですから、論点としてたくさん出の中で、それを整理していきたいというふうに思います。

では、最初に、議員定数の増の場合、議員定数の増、それから減で、デメリットとメリットとありますから、その項目だけでも幾つに及びますかね。それと現状維持がありますので、12項目が出てきますよね。一つ一つ聞いていきます。議員定数の増の場合のメリットについて、御意見のある方。

(進め方についての声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうぞ。

○早川直彦委員 これ、私、田原市の議会改革に対する報告書……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） よそのことは……。

○早川直彦委員 いいんですけど、何々について、例えば、その人口や県内の比較をして、削減がいいのか、現状がいいのかとか……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 僕は、早川議員と言う、どうぞと言ってから、早川議員ってそこから指名しますので、もう一度ね。早川議員というふうに指名しますので、そこから。

他市の情報でもいいですから、参考になる進め方がありましたら言ってください。

早川委員。

○早川直彦委員 よろしいでしょうか。

何々について削減、現状維持というふうにしないと、このことについてはどうだという目的がないと、これ、なかなかやりにくいんじゃないですかね。このテーマについてを順番にやっていこうというほうが、時間もかからず効果的じゃないですか。ただどうぞと言われて、増したり減したりじゃなくて、何かこの部分については増なのか、減なのか、現状維持なのかというほうがよろしいんじゃないですか。

(具体的に言わないとわからないの声あり)

○早川直彦委員 いや、それ、他市町のことを言うって、何とかと言って。

例えば、追加資料の、ナンバー3の資料や追加資料でもいいですが、人口や面積とか議員1人当たりの人口とか、近隣の報酬額、財政力から、財政力は当然、基本条例でも載っています。また、委員会の構成から見てどうかとか、監視機能から見てどうかとか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） もう進め方で、またくちやくちやになってはいけません。

近藤裕英委員。

○近藤裕英委員 今回の進め方の件で、ちょっと私、やっぱりよく理解できないんですが、そもそも委員長と副委員長がみえて、私が委員長だったらこういうふうに進めるというような意見であれば、20通りの進め方が発生してしまうので、今、一応、委員長と副委員長が選出されてるので、その進め方に大きな異議があればまたおっしゃっていただければいいんですけど、どこかのルールに乗ってやっていかないと難しくないですか。私はそう思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 私と副委員長のほうでは、もう一度確認します。定数について、報酬も同じことが言えますよ、定数について、増、現状維持、減、この3つがあるわけですよ、具体的には。そうすると、増についてのメリットとデメリット、現状維持についてのメリットとデメリット、減についてのメリットとデメリット、だから、この中で、定数について見ても6項目出てくるわけですよ。6項目出てくるので、皆さんがそれをいろんなところから言うと、もう整理、ちょっとしづらいので、私が言ったように、定数の増をした場合のまずメリットは、どういう点が論点として考えられますかという。その次に、定数についてのデメリット、現状維持についてのメリット、デメリット。減らした場合のメリット、デメリットという。だから、定数についても、6つ項目、6項目について1つずつ整理をしていきたいというふうに考えておりますが、御異議ありますか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、そういうふうに進めさせていただきます。

定数の増の場合のメリットについて、どうでしょうか。メリットについて、論点として。郷右近委員。

○郷右近 修委員 一般的な受けとめ方として、社会の多様性に合わせて、いろいろな考え方の市民の方の意見を代表として議会に反映させることができるというふうに言えると思います。年齢であったり、性別とか、あとは社会的立場だとか、いろんな項目があって、いろいろな意見があると思うんですけど、それをできるだけ余さず議会の場で意見としてのせることができる、そのために、議員が多くなると有効なのではないかという考え方ができると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

そのほか。

いろんな考えられることを言ってください。それに反論するとかそういうことじゃないし、また、自分の意見を言うことじゃなくて、こういう点が考えられるよということで皆さんから意見を出していただいて、意見というか論点を出していただいて、それを整理してくと、かなりいいところに近づけるかなと。

富永委員。

○富永秀一委員 あくまでも論点整理ということで、自分の意見とは関係なく、こういうことが考えられるというのを挙げるということでもいいですね。

じゃ、3点挙げます。

1つは、今、郷右近さんがおっしゃったこととちょっと重なりますが、多様な人が議員になるチャンスがそれだけふえると、増加する。

それともう一つは、もし、今、20ですけど、プラス1になった場合には、以前配られた江藤教授の資料があったと思いますが、そこで1委員会当たり7人というのが適正ではないかということがありました。1人ふえると、今、建設消防が6人ですが、それも7ということで7ずつということになります。

プラス2にした場合には、1委員会当たり7人、プラス委員会に所属しない議長という形が可能であるということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

増の場合のメリット。どういう視点というか、どういう点が考えられるかという。

後藤委員。

○後藤 学委員 すごい単純なことですけども、報酬のことがまだ話されていませんが、仮に報酬を引き下げないとすれば、それだけ議会費が伸びるということに。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） メリットのほうだよ。今やっているのはメリット。

（メリット。メリットだけですか。失礼しましたの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） メリット。

裕英委員。

○近藤裕英委員 全く客観的なことだけで言うと、やっぱりたくさんいればいるほど、市民の方と議員が触れ合う、接触する可能性が当然ふえるわけなので、物理的には市民の方の意見の聴取をしやすくなる可能性があるということですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

今、4点ほど出ております。

月岡委員。

○月岡修一委員 内容的には同じようなことになるんですが、27区の中で議員がいないからということで、区長さんからいろいろと御要望いただく場合があるんですが、そういった議員が不在の区が少しでも減るのかなど。そういったところにおいては、やはり区長さんの後ろ盾になる議員がいるということは住民のためにもなるということなので、そういった方向では増もありかなど。いい意味で考えられるということですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 これも議員の質とかいうことを全く度外視しての話ですけども、行政に関して監視の目がふえる。それから、一般質問等を多くすればということですが、そういった提案がたくさんされる可能性がある。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。
そのほか、ありますか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、増の場合のメリットということは、四、五点出ましたが、一応これで打ち切りまして、それじゃ、デメリットについてはいかがでしょう。これの反対ということにはなるわけですが、私見を抑えて、述べていただければありがたい。

後藤委員。

○後藤 学委員 先ほど申し上げたことですけども、それだけ、報酬が同じであるとすれば議会費がふえるということが1点と、それから、議員になる前に議会を傍聴して感じてましたが、人数が多くなると議員の一人一人の責任が曖昧になる、もっとわかりやすく言うと、言わずに黙っていても目立たない。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。
そのほか。

考えられること。自分の意見でもないし、人が言ったことに対して、ほかの委員が言ったことに対して反論するわけでもないですので、論点を整理したいと思いますので。

富永委員。

○富永秀一委員 議員の定数を議会が決めることですので、ふやした場合には、独善的という批判を受ける可能性がある。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

裕英委員。

○近藤裕英委員 当然のことながら、歳費がふえるということですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 議員がふえて多様な意見が出るということの裏返しとして、議会の中で1つの意思決定というか、合意形成をつくっていくのに時間がかかる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。
そのほか、どうでしょう、考えられること。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、増の場合のメリットとデメリットは、一応これで切ります。

それでは、定数の場合の現状維持——現状維持というのは今の状況ですね——のメリット、非常にいろんなことに重なりますけど、御自由に発言していただきたいと思います。現状維持の場合。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 人口の規模とか、まちの経済規模が一定だとすればなんですけど、議会や議員の数が同じ中で、どれぐらい議会としての能力が上がったとかいう変化を、同じ数であれば比較をしやすいという面はあるかもしれないと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 私のほうから聞いて失礼ですが、比較というのは何と何の比較ですか。

○郷右近 修委員 同じ議会の人数で構成して運営してますから、より、同じ人数だったんだけど以前に比べると市民のいろいろな意見が、同じ人数でも多様に反映されるようになったかなとかそういったことが、以前と今、今もしくはもっと先という形で、比較がしやすいことはあるのかもしれないと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 いただいた資料を無視して申し上げますと、やはり20名の定数の議員の中でも、いろんなお話を聞きますと、うまくいかない議会もあるようですが、私ども今期は、非常に理想的に20名の議員が協力しながらいい方向に進んでおりますので、そういった環境を考えたときに、そういった現状を維持することが一番ベターだろうと思いますので、20名の現状が一番いいだろうという判断をしております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 自分の意見がそこに入り込みやすい。

○月岡修一委員 言い過ぎたことは取り消してください。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 自分の意見がどうしても入りやすいので、留意してください。

裕英委員。

○近藤裕英委員 現状維持すれば、言い方は悪いかもしれないけど、いろんなことがそのまま継続できるわけですよね。形態も、いろんな選挙のシステムも含めて。手間が省けるという意味ではないですけど、現状維持というのは同じ形態を続けれるという、客観的にはそういうことができると思うんだよね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 今、裕英さんがおっしゃったように、要するに大きな変更が要らないということと、あと、少なくとも、例えば議会の機能としてチェックをするとか、あるいは提案をするというものを議会力と表現するのであれば、少なくとも現状の議会力を維持できる可能性があるという。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 現状維持ね。現状の力。

そのほか。

近藤善人委員。

○近藤善人委員 現在、1期、2期の議員にしてみれば20人でしかの経験がないものから、4期、5期とやられた議員さんにお聞きしたいんですけども、そこでどんな状況というか、メリット、デメリット、26人の場合と今と比べて、わかれば。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員のあれだと、答える場合には、私見が入り込まないとなかなか言えんで、客観的な事実だけで比べたときに、この点とこの点だよというふうに言えるかもしれませんけどね。

どうぞ、富永委員。

○富永秀一委員 今の近藤善人委員の提案で言うならば、どちらかというところ、今よりも多かったときのことでありますから、増のときのメリット、デメリットという形で聞くのであれば、ちょっとさかのぼりますけど、意味はあるかなと思います。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 善人委員、いいですかね。

（今の答えが必要ですかの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いやいや、それでいい。答えは、もしもメリット、デメリットで、そういう論点でこういう点はというのがありましたらということですので。

それでは、現状維持の場合は、これで閉めますよ。

（デメリットはの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめん。失礼しました。

デメリットを聞いておりません。現状維持の場合のデメリットについてはどうですか。

じゃ、後藤委員。

○後藤 学委員 定数削減の運動をした経験のある立場から言いますが、市民の目から見ると、議会は改革をしていないというような評価を受けるおそれがある。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そういう。

どうぞ。

○富永秀一委員 今、おっしゃった議会が変化した印象を与えられないということと、あと、議会の活動が活発に今よりもなった場合には、1人当たりの作業量がふえるということ、それから、現状としては、1委員会当たり7人を下回っているということがあります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、現状維持のデメリット。今言いましたが。どうでしょうか。

それでは、現状維持のメリットとデメリットはここで打ち切っていいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、減をした場合の、定数減の場合のメリットとデメリットについて、論点のある人は挙手願います。減のメリットです。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 議員1人当たりの報酬だったり必要な経費というのが固定されるのであれば、総額の市の財政的な負担が減るというメリットはあると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょうか。

後藤委員。

○後藤 学委員 先ほどどこかで言ったことと反対になりますけど、議員増のデメリットで言ったこととの反対になりますが、議員が少なくなることで、一人一人の議員の責任が明確になる。先ほどと同じように、もっとわかりやすく言いますと、例えば委員会なんかで発言せずにいれば、そのことが非常によく目立つ。委員会にしても本会議にしてもということで、責任がより明確になると。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょうか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今の意見とかぶる部分もあるんですけども、やはり一人一人の議員が、議会で積極的にというか活発に活動しないといけないという、気持ちの意味でそうい

うふうに思う議員がおのずとふえてくるのではないかと思うし、それと同じように、市民も、一人一人の議員の活動状況を監視しやすくなる、チェックしやすくなるので、今より監視しやすくなるので、そういった意味でも、切磋琢磨したり資質の向上につながるのではないかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） メリットについてお聞きしていますが、メリット。

三浦委員。

○三浦桂司委員 同じことですけども、これしかないと思うので、削減したお金、報酬を市民サービスに回すことができると。郷右近議員の発言と全く同じです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょうか。

メリットのほうの整理は、これでよろしいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、デメリットのほうに行きます。

後藤委員。

○後藤 学委員 議員を削減すべきだというふうに考えている市民が非常に多いので、削減をすれば、そういった市民からの評価が得られると。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、デメリットについていきます。

定数減のデメリットは、どうでしょうか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 委員会の構成が、今、現状で3つの常任委員会があるんですが、その委員会の構成人数が現状維持ができなくなる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

裕英委員。

○近藤裕英委員 先ほど富永委員が言われた反対のことが発生すると思う。いわゆる定数が少なければ、多様性も減るというんですかね、いろんな個性を持った議員が、例えば20が15になれば、多様性が減るということですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一色委員。

○一色美智子委員 誰でも選挙に出られなくなることになると思う。市民が誰でも議員に立候補することができなくなるのではないかなと思います。

それと、今、構成人員がって言われたんですけども、場合によっては委員会をかけ持ち、2つ重なるのではないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 先ほど出た意見の、意見の多様性が反映されにくくなるという中でさらに言えば、特に少数の意見が反映されにくくなっていくのではないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 率直に言います。現議員、将来、議員になる人の選挙が厳しくなる。意見の多様性は今言われましたので、選挙が厳しくなる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 今の三浦委員のおっしゃってる、あるいは一色委員のおっしゃってることと重なる部分、より具体的に言いますと、多様な人が議員になるチャンスが減ると。それは、当選ラインが上がるので、固定票だとか組織票のない新人が当選しにくくなるということですよ。

それとあと、議会の活動が活発になった場合には、1人当たりの作業量が、現状維持の場合よりさらにふえるということになります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 やはり一番心配しますのは、27区あって20名の議員ですけども、20名の議員がそれぞれ1つの区に散らばってるわけじゃないわけですね。したがって、現状でも議員のいない区が存在するわけですので、さらにそういった区がふえることを一番懸念します。やはり区長の考え、そういったものを行政に届けるためには、ある一定の人数は必要だろうと思いますので、それが最大のデメリットだろうと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） デメリットで、そのほか。裕英委員。

○近藤裕英委員 少数の議員で議会を構成すれば、委員会、議会とも、少数で過半数で決していくということになるので、一人一人の意見が大きくなると思うんですね、自分の持っている。例えば10人で過半数ですと5対5、例えば5人でやれば3対2という形になるので、どうですか、デメリットかどうかはわかりませんが、個々の権限が今よりは大きくなるのがデメリットになるかもしれないということですよ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤……。

（ちょっと私語を注意してください。委員長、傍聴者の私語を禁止してくださいよの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 傍聴者の方をお願いいた

します。私語は慎んでいただきたいというふうに思います。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 増のときには意思決定が時間がかかるだろうから、逆に言うと、減になって意思決定が簡単になればなるほど、そして多様性が少なくなればなるほど、独裁的なというか、そういうふうなことも考えられる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょうか。

もうほか、ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、定数についてのメリットとデメリット、あそこで言い忘れたという方、ひっくるめてありましたら。言い忘れてましたということで。

よろしいですか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、定数についてのメリットとデメリットについての論点、一応これで閉めさせていただきます。

次に、報酬か。

これで私、委員長のほうから申し上げておきますが、今、こういうたくさん意見が出ましたけども、論点としてやっぱり整理するには、もう少し、同じような意見ですね、特に。そういうところをやっぱり整理して重ねていく。そうすると、今、ここでたくさん、数で言いますと何十個って出ておるわけですが、これがもっと少なくなると思います。けども、それはきょうやるというわけにはいきませんので、この次のまた計画の中で行っていききたいというふうに思います。

それでは、次に、きょうの予定でいきますと、報酬のほうも、このメリットとデメリットを行いたいと思いますが、頑張ってくださいますか、あと35分間。

それでは、報酬についてのメリットとデメリットについての意見を取りまとめます。

先ほどと同じように、報酬増の場合と現状維持と減の場合について、メリットとデメリットについてお聞きをしていきます。

じゃ、報酬を上げた場合のメリットについて、論点のある方。

月岡委員。

○月岡修一委員 有能な若い人たちが政治に参画しやすいという、そういったメリットはありますので、重要な課題かなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 増額される分のその費用を、これまで以上に政治活動、調査活動に充てることによって、より細かい情勢の分析であるとか政策立案などにつなげることの可能性が出てくると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

富永委員。

○富永秀一委員 月岡委員の発言とちょっと重なりますが、多様な人が議員になるチャンスがふえると。今おっしゃった若い方だとか、あと、脱サラをしてとか、あるいは扶養家族が多いとか、そういう方でもなれる可能性がふえるということです。

それと、市政に対して多様な意見を反映させたり多角的なチェックをする、先ほどから議会の力というのが、その分上がる可能性があるということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、メリットは終わりまして、デメリットについて行きます。報酬を上げた場合のデメリット。

裕英委員。

○近藤裕英委員 当然、議員になろうという方が、結局、生活もありますので、ハードルが高くなると思います。

（増加させる場合のデメリットの声あり）

○近藤裕英委員 違う、違う、違う。報酬が減ったらでしょう。

（いや、いや。増加させる場合のデメリットは何だろうの声あり）

○近藤裕英委員 今、デメリットでしょう。

（ふやした場合のデメリットの声あり）

○近藤裕英委員 報酬をふやしたときのデメリット。ごめん、間違いました。済みません。減らした場合だと思った。取り消してください。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 市の財政的な負担がまずふえるということがあると思います、まずは。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

富永委員。

○富永秀一委員 定数のときもそうですけど、議会が決めるということですから、独善的という批判を受ける可能性があるということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 報酬をふやした場合のデメリット。どうでしょう。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 これはあくまでも可能性なんです、むしろ政治的な議員としての役割よりも、そういった報酬の金額のほうに大まかな魅力だとか、そういう気持ちによってなろうと思う人も出てくる可能性はあるのかなというふうには思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、ありませんか。後藤委員。

○後藤 学委員 今のこととほとんど同じかもしれませんが、名古屋の河村市長が言ってるみたいに、議員が家業化するというので、その仕事を続けていくために、選挙に出ることに議員の活動の重点が移ってしまうと。その仕事を続けるということが議員の目的になってしまうという。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのとおりの論点ですが、もう反論することなしに、いろんな意見を言っていただければいいかなというふうに思います。

そのほか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、増の場合は打ち切りまして、それじゃ、現状維持、現在ですね、現状維持の場合のメリットとデメリットはどうでしょう。どうですか。

富永委員。

○富永秀一委員 大きな変更が必要ないというのがメリット。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 この間の相対的な状況で、ではあるんですけど、先ほどお話があったように、議員がみずから自分たちの報酬について検討した上で引き上げをしないというふうな態度のもとに今の報酬があると思うので、そういったことへの市民の方からの理解を得られやすいという面はあるかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 市民の理解が得られる。

そのほか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、現状ですね、

現状でのデメリット。

富永委員。

○富永秀一委員 先ほどの定数のときと同じですけど、議会が変化した印象を与えられない。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうでしょうか。

○富永秀一委員 先ほどの郷右近委員の発言を聞いて思ったんですが、現状維持といっても、今の報酬を本当に維持するという意味と、前まで行われていた人事院勧告に従う、あるいは報酬委員会の決定に従うという維持と、本当に今の値を維持するというのではちょっと違ってくるかなということを今、聞いて思ったんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

今のはまさに論点で、現状維持であっても2通りちょっとあるよということなんですけど、郷右近委員。

○郷右近 修委員 金額上の数字を固定した場合という考えで言えば、世の中がよい方向に経済が回って、給与水準なんか引き上がっていったりとか物価が上がっていくような状況でも維持するようだと、議員の生活の苦しさだとか、あとは、先ほどお話ししたような、その費用で政治の研究に取り組むとかというのが困難にちょっとずつなってくるのかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そうすると、私のほうからちょっともう一度お聞きしたい。人事院の勧告とか、そういうことについては、どういうふうに考えていますか。

○郷右近 修委員 済みません、僕、余りそこまで考えていませんでした。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員の、意見じゃないよ。論点として、どういうふうに考えて。

○郷右近 修委員 先ほど僕が言ったことも、金額の数字を固定したという考えのもとで発言しました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 なので、報酬を現状維持した場合に、本当に金額で現状維持ということになると、例えば人事院勧告なんかあって議案が上がってきたりだとかということがあったときには否決せざるを得ないだとか、期末手当を上げるよというようなことがあったときにはもう取り下げていただくとか、そういうことが起こってしまうということがあると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうですか。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは……。

○富永秀一委員 さっきのメリットのところに、今の要するに報酬委員会に従うのか、現在の金額を維持するのか、ちょっと頭を整理する時間、ちょっと下さい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ちょっと、皆さんも同じことだと思うんだわね。現状維持の場合は、これは人事院の勧告も含めてだけど、市の報酬委員会の今の現状であっても、人事院なり市の報酬委員会がこれだけ上げなさいよと言ったら、それにずっとそのまま上がっていくことが現状なのかという。それは、上げるということを意味するのか現状なのかという、そこら辺の微妙な違い。

富永委員。

○富永秀一委員 現在の金額を維持するということではなく、これまでのように、要するに報酬委員会の決定に従っているということであると、報酬について議員が特に考える必要がないというのが、メリットとして追加できると思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、現状維持ということについて。

後藤委員。

○後藤 学委員 次の減の場合のほうでより顕著になるとは思いますが、現状維持の場合でも、先ほど議長が言われた、有能な若い人が出にくいということはあるかなと、デメリットとして。そういうふうに思って、感じています。若い人だけじゃなくて、富永委員が言われたように、多様な人がというのも含めて。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、報酬の減のほうのメリットとデメリットに行きます。

それじゃ、報酬を減じた場合のメリットについてお願いいたします。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 市の財政上の負担が減るところだと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) そのほか、どうでしょうか。そのほか、ありませんか。減らした場合のメリット。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 報酬増のメリットの逆転は考えられると思います、全てのこと。例えば有能な方の参画ができていく、そういったことが考えられる。

(メリットの声あり)

○近藤郁子委員 ごめんなさい、メリットですね。ごめんなさい、失礼しました。デメリ

ットのほうでした。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　じゃ、今、メリットです
ので。

後藤委員、挙手しましたか。

○後藤 学委員　前提があるんですが、報酬を減らす場合のメリットですよ。予算を現
状程度というふうに考えれば、議員の数をふやすことができる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　報酬を減らす場合のメリ
ットは、ほかにありますか。

近藤裕英委員。

○近藤裕英委員　メリット、デメリット両方かもしれませんが、報酬が少なくても議
員になるんだという、そのボランティアな気持ちというのか、志の強い人が手を挙げてく
る可能性は、今の減らすという、減ったという状況を見て、そういうふうに思う人が出る
かもしれないですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それでは、ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　それじゃ、報酬減の場合
のデメリットのほうに行きます。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員　先ほど申し上げたように、有能な方の参画がしにくくなる、政治活動が
狭まるというようなことも考えられるということと、志のある人が出ていただくのはいい
ですけども、逆に志があっても生活の能力がなくなってしまうことで、ほかに仕事を持
ってらっしゃる方、そういった方しか出れなくなることは考えられる。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　そのほか。

早川委員。

○早川直彦委員　報酬を減らすことによって、議会のアマチュア化、余り時間をかけるこ
とができなくなって、深く調べるとか調査することができなくなって、そういう危険な部
分が出てくる可能性がある。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　そのほか、ありませんか。

清水委員。

○清水義昭委員　早川委員と同じようなことかもわからないですけど、報酬が減になった、
一般的なサラリーマンだと、給料が上がってくとモチベーションが上がってくんですけど、
減になったということで、これぐらいでいいやみたいな、そういうモチベーション的なこ

とがあるかも知れないですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 これは可能性というか、あっちゃいけない話なんですけど、そういった経済的な事案から、まれに賄賂だとか不正なことが起きることが多くなる可能性もあるかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょうか。

富永委員。

○富永秀一委員 出てることをより具体的にという感じですけど、多様な人が議員になるチャンスが減るということで、例えば資産家や自営業者であったり不動産収入がある人はなりやすく、あと扶養家族が少ない人というのはなりやすく、あるいは、脱サラをしてとか扶養家族が多いとかいう人はなりにくくなるということです。そういったことによって、市政に対して多様な意見を反映させたり多角的なチェックをする議会の力が落ちる可能性があるということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。もうないですね。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それぞれのメリットとデメリット、それぞれというのは、定数と報酬のは把握できたというふうに思います。これで、報酬と定数のメリットとデメリットについての論点整理をこれで終わります。

続いて、3、その他に入ります。

この際、委員より何かありますか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ないと認めます。

それでは、今後のスケジュールについて、皆さんの机の上に、2月9日の、何時だったかな。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、そのとおりに、机上配付されてあるとおりに協議会を開きます。

協議会の主な内容は、要するに市民も含めてこのことについて学習するという視点で、どういうふうにやったらいいのか、何回やるのか、そのやり方等について、日数だとかやり方等について、協議会ですので、忌憚なく皆さんの意見をお聞きして取りまとめていき

たいというふうに思います。取りまとめ、そこで協議会として決定していきたいというふうに思いますので、お願いいたします。

それから、きょうのこの論点整理については、皆さん、論点を出しっ放しですので、これを少し整理するという点については、私と副委員長のほうで整理をさせていただいて、皆さんに提示すると。それは、ちょっと日程は詰められませんけども、次の委員会のところで提示をしていきたいというふうに思います。

私が今申し上げたことに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 異議なしと認めます。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 今、委員長が言われた点についての異議ではございませんが、進め方の①の豊明市のこれまでの経緯と他市の状況について学習するという、今のメリット、デメリットの前にやった部分ですけれども、その点について、もう少し意見交換をしたり、豊明市は先ほど、何位であるとか、どのくらいに位置するというような分析の内容を御報告いたしました。それについて豊明市がそれでいいとか悪いとか、どうあるべきかみたいなそういった話は、市民参加も含めたいろんな話し合い、学習の中でやるのか外でやるのか、そういったことは、どういうふうになるのでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一応、ごめんなさい、山盛委員の今申されたことは、例えば具体的な資料について、個々の具体的な資料について、もう少し突っ込んでというか、やるという必要がありませんかということの趣旨ですよね。私が今、聞きますのは。

1番から7番までの資料はこれだよということで皆さんに認めていただけていますので、その資料を読み取って理解が深まったという前提で、きょうがあるわけですね。きょうがあるわけですので、細かいことについて、ちょっと今の提案のことについて、私、今ちょっとここで申し上げることはちょっと難しい。

どうぞ、富永委員。

○富永秀一委員 今、山盛委員がおっしゃったような、資料をどう活用して、どう読み解いていくかっていうのは、例えば市民、要するに第3レベルですよね。市民等の学習においてであったり、あるいはもう最終的に、私はこのいろんな資料の中でこれを重視するからこういう意見なんだとか、そういうところで使うべきものなのかなというふうに思います。一つ一つの資料について、これについてどうですかというのをやっていくというのは、ちょっと議論の幅が狭くなってしまわないかなという感じがします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員が、今ちょっと私が思っていることをまとめていただいたんですが。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 本音で申し上げてる。

だから、少なくとも現在のこの流れの中でデメリット、メリットまで来たというのは、今までのこの資料を見ながら、あるいは資料を理解しながらここにたどり着いたということですので、これ、個々の問題についてももう少し深く読み取っていくというのは、やはり全体でやるのはちょっと僕は難しいかなというふうに思います。だから、それは、私がその意見を言うということじゃなくて、流れを提案しておるというふうに思ってください、流れ。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 一応、豊明市の議会基本条例の17条の議員定数という条項には、市議会が議員定数を改正するに当たっては、市の人口、面積、財政力等、市政の状況、現状、将来の予測と展望を十分に考慮するものとするということに基づいて今、いろんな資料が出てきたわけですが、その最後のくだりの十分に考慮するというのは、委員長とか富永委員の御意見だと、個々に考慮するというふうに受け取れるわけですがけれども、特別委員会の中でそのことについて話をするという、議論する、深めていくということが不要ということになるんですが、私はちょっとそれは違うんじゃないかと。最終的にそれをどう判断するかは個人だけれども、若干の話し合いがあってもよいかと思うんですが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 それを最後までやらなくていいという意味ではなくて、要するに、この今までの過去の経緯であったり、ほかの市町村との比較というのも1つの資料であるし、市民の意見というのも1つの資料であるし、専門家の意見というのも1つの資料であるし、そういうものを統合して最終的にどうだということを判断する段階では、それは一つ一つ見ていくのも価値があると。最後まで無視していいという意味ではなく、今の段階でそれをやると、現状の比較や過去の経緯だけをもって何かそれを判断するような、第4段階でやるべきことがちょっと先に行われるような印象を受けるということです。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 意見ある。

どうぞ。

○近藤裕英委員 資料ナンバー3で早川さんが出していたやつ、非常に綿密に計算していただいて、御苦労さまです。

ちょっと私、この中で、愛知県内だけでいろんな計算をしてみると、ほかの愛知県外のやつも平均の中に入っているものですから、愛知県内だけでちょっとざっと計算すると、例えば順位も当然違って来るわけですし、参考として受けとめておりますけど、例えば刈谷市とか半田市とか東海市さんが、十何万人いるところも含めて平均ということになっていいますから、どこまでを入れるかっていうのはありますけどね。私もぱっと計算すると、その10万人以上の3市を除くと、B割るCの平均というのは18.6になりますね。刈谷市だけ抜くと17.9ということなので、あくまでも参考としていただいているという判断でよろしいですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ってくださいね。

（こういう議論をしなきゃいけないの声あり）

○近藤裕英委員 資料について客観的な意見ですので、討論という意味で申し上げてませんので、確認です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、私がまとめます。

要するに、きょう行き着いたところは、1番から7番までの資料に基づいて理解を深めて、定数と報酬についてのデメリット、メリット、それをみんなで出し合って論点を整理するという事ですので、目的は達成したと。

ちなみに山盛委員が言われたように、資料の中でもう少し個々の問題についてということについては、ここで討論したり話し合いますともうぐちゃぐちゃになったり、きょうは委員会の趣旨が違いますので。また協議会のときに、次の、市民とのありようをどのように考えていくかという協議会、机上に配付されております9日の2時からの協議会について、そのところで出れば、時間を区切って話し合ってもいいかなというふうに思っております。

以上です。

では、本日の豊明市議会議員定数・報酬特別委員会を閉会といたします。

午前11時54分閉会